

2/9 (金) 石川県栄養士会災害対策本部：支援状況の概要の説明を受ける



左：今回の災害対策のための組織図
 右：栄養士会事務局が管理する倉庫。野菜不足対策として粉末野菜スティックを導入していた

2/10 (土) ~12 (月) 宿舎からそれぞれの活動場所へ



上左：支援に駆け付けた京都、愛知、静岡、栃木、新潟、長野のリーダーたち。
 上右：宿舎と JDA-DAT 号
 下：避難所への道は急ピッチで復旧作業が進められているが、まだまだ道路状況は厳しい。

避難所内の様子

支援物資の食品を3色に分類。3色揃うように選ぶことで、自然とバランスの良い組み合わせになるよう、食品コーナーの環境整備を実施（避難所の了解を得て実施）



能登町小木地域交流センター（福祉避難所） 2/10
「福祉チームに管理栄養士が帯同していれば、もっと早い段階で食環境がよくなったのに」との声も。



能登町内浦分署 2階 2/12
自治体職員が撤退。自主避難所に移行していた。



能登町城丸公民館（津波被害地区）
上右：被災者自身が避難所の食事の準備を担い、「食べすぎ注意」などの注意喚起も掲示されていた。
左：負担感は一ピークに達している様子。「すぐに食べられるものを運んできてほしいと再三伝えているのに状況は変わらない」との厳しい声も。支援物資として生野菜が届いていたが、「調理スペースは狭小で調理しきれない」と館長。